



## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 2001222597 A

(43) Date of publication of application: 17.08.2001

(51) Int. Cl. G06F 17/60  
G06F 19/00, G06F 17/30

(21) Application number: 2000030458  
(22) Date of filing: 08.02.2000

(71) Applicant: MITANI SANGYO CO LTD  
(72) Inventor: TOKUDA MASATO

(54) ENTERPRISE INFORMATION REGISTRATION  
APPLICATION PROMOTION SYSTEM AND ITS  
METHOD AND RECORDING MEDIUM WITH  
PROGRAMMED THE METHOD RECORDED  
THEREIN

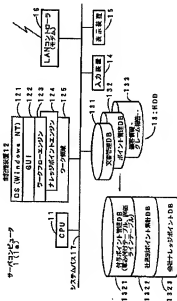
rank table and employee-by-employee and company-  
by-company point accumulation files.

COPYRIGHT: (C)2001,JPO

(57) Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide an enterprise information registration application promotion system which can be applied to the incentive or personnel evaluation.

**SOLUTION:** A point is added to an information inputting action of an employee and also the points are added to the quantity, the quality and the degree of application of the information offered from the employee. Meanwhile, the change of cumulative points are monitored in each category of information or for every employee for analyzing the accumulation degree of information. Thus, the motivation is improved to each information strategy and the information serving as a personal know-how can be used as an enterprise knowledge. In order to attain this function, a knowledge point engine 124 is added to a client server system 10 for configuring a point management DB 132 consisting of a weighting table, an evaluation



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-222597

(P2001-222597A)

(43) 公開日 平成13年8月17日 (2001.8.17)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	データ <sup>7</sup> (参考)
G 0 6 F	17/60	G 0 6 F 15/21	Z 5 B 0 4 9
	19/00	15/22	N 5 B 0 7 5
	17/30		3 1 0 G
		15/40	3 1 0 F
			3 7 0 Z
審査請求 有 請求項の数 16 (全 15 頁)			

(21) 出願番号 特願2000-30458(P2000-30458)

(22) 出願日 平成12年2月8日 (2000.2.8)

(71) 出願人 394027559

三谷産業株式会社

石川県金沢市玉川町1番5号

(72) 発明者 徳田 正人

石川県金沢市玉川町1番5号 三谷産業株

式会社内

(74) 代理人 100080690

弁理士 瀧野 秀雄 (外1名)

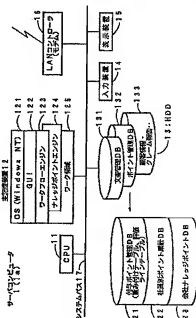
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 企業内情報登録活用促進システムならびに方法及び同方法がプログラムされ記録される記録媒体

(57) 【要約】

【課題】 インセンティブや人事評価に活用できる、企業内情報登録活用促進システムを提供する。

【解決手段】 社員が情報入力する行為にポイントを加算することはもとより、社員が提供する情報の量や質、活用度によって更なる評価ポイントを加算する。また、企業の知識資産を蓄積すると共に、情報のジャンル、もしくは社員毎、累積ポイントの推移をモニタして情報蓄積の度合いを分析することで、個々の情報戦略に対するモチベーションの向上をはかり、個人のノウハウとされていた情報を企業の知識に変えることができる。この機能を提供するためにクライアントサーバシステム10にナレッジポイントエンジン124を搭載し、重み付けテーブル、評価ワークテーブル、社員別、会社別ポイント累計ファイルから成るポイント管理DB (132) を構築した。



## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 業務に関連する企業内情報を蓄積し、その情報を共有する情報共有システムに使用される情報登録活用促進方法であって、

前記情報の登録行為に対し、その登録社員に任意のポイントが付与すると共に、

前記登録の結果生成される文書を他の者が活用したとき、前記活用された文書の登録社員に、当該活用社員による評価が反映されたポイントが付与し、

前記情報のジャンル、もしくは社員毎、累積ポイントの推移をモニタして前記情報蓄積の度合いを分析することを特徴とする企業内情報登録活用促進方法。

【請求項 2】 前記登録者毎の累積ポイントを集計し、期間別、もしくは情報のジャンル別に照会することを特徴とする請求項 1 に記載の企業内情報登録活用促進方法。

【請求項 3】 前記活用人にも活用した時点で相当のポイントが付与することを特徴とする請求項 1 に記載の企業内情報登録活用促進方法。

【請求項 4】 前記活用時に付与されるポイントは、あらかじめ定義された評価基準に従い、活用人が重み付け設定することによって付与することを特徴とする請求項 1 に記載の情報登録活用促進方法。

【請求項 5】 業務に関連する情報を蓄積してデータベース化し、その情報を共有するサーバクライアントシステムにおいて、

前記サーバは、前記クライアントによる情報の登録行為に対し、その登録者に任意のポイントが付与する第 1 のポイント付与手段と、

前記登録の結果生成される文書を他のクライアントが活用したとき、前記活用された文書の登録者に、当該活用人による評価が反映されたポイントが付与する

第 2 のポイント付与手段と、前記情報のジャンルもしくはクライアント毎、累積ポイントの推移をモニタして前記情報蓄積の度合いを分析し、要求のあったクライアントに提供するポイント情報提供手段と、を備えて成ることを特徴とする企業内情報登録活用促進システム。

【請求項 6】 前記第 1、第 2 のポイント付与手段は、あらかじめ、分類毎に内容を定義したそれぞれにポイントを設定し、更にそのポイント集計先を規定したポイント管理テーブルを持つことを特徴とする請求項 5 に記載の企業内情報登録活用促進システム。

【請求項 7】 前記第 2 のポイント付与手段により活用人による評価が反映されたポイントが付与される都度更新され、閲覧要求があったときにその活用履歴を公開する活用履歴データベースを備えて成ることを特徴とする請求項 5 に記載の企業内情報登録活用促進システム。

【請求項 8】 前記サーバは、ジャンルもしくはクライアントをキーとして集計し、獲得ポイントをデータとして持ち、閲覧要求のあったクライアントに提供するポイ

ント累計データベースを持つことを特徴とする請求項 5 に記載の企業内情報登録活用促進システム。

【請求項 9】 業務に関連する情報を蓄積し、その情報を共有するクライアントサーバシステムに用いられ、クライアントによって登録される情報を文書 DB に登録するステップと、

あらかじめポイント管理テーブルに規定されたポイント参照することによって登録者に該当するポイントを付与し、ポイント獲得の都度そのポイントを累計加算するステップと、

前記登録文書を更新するステップと、前記登録文書に關し、活用のために検索語を入力することによって情報検索を行うステップと、

前記情報検索の結果、活用したい文書を抽出して閲覧表示するステップと、

前記閲覧表示した文書をあらかじめ定義される評価基準に従って評価入力し、少なくともその文書の登録者に前記ポイント管理テーブルに従うポイントが付与するステップと、がプログラムされ記録されるコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【請求項 10】 前記評価入力した活用人にもポイントが付与し、このポイント獲得の都度加算してポイントを累積するステップが更にプログラムされ記録される請求項 9 に記載のコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【請求項 11】 前記評価入力の都度活用履歴 DB を更新し、閲覧要求があったときにその活用履歴を公開するステップが更にプログラムされ記録される請求項 9 に記載のコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【請求項 12】 あらかじめ、分類毎内容を定義したそれぞれにポイントを設定し、更にそのポイント集計先を規定してポイント管理テーブルを設定するステップが更にプログラムされ記録される請求項 9 に記載のコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【請求項 13】 前記ポイントは、定義される内容毎あらかじめ設定される数値であることを特徴とする請求項 12 に記載のコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【請求項 14】 前記ポイントは、設定された数値に、更に所定の重み付け演算を行うことによって定義される数値であることを特徴とする請求項 13 に記載のコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【請求項 15】 業務に関連する情報を蓄積し、その情報を共有するクライアントサーバシステムに用いられ、クライアントによって登録される情報を文書 DB に登録するステップと、

あらかじめポイント管理テーブルに規定されたポイント参照することによって登録者に該当するポイントを付与し、ポイント獲得の都度そのポイントを累計加算するステップと、

前記登録文書を更新するステップと、前記登録文書に關し、活用のために検索語を入力するこ

とによって情報検索を行うステップと、  
前記情報検索の結果、活用したい文書を抽出して閲覧表示するステップと、  
前記閲覧表示した文書をあらかじめ定義される評価基準に従って評価し、少なくともその文書の登録者に前記ポイント管理テーブルに従うポイントを付与するステップと、  
少なくとも前記登録情報のジャンル毎、累積ポイントの推移をモニタして前記情報蓄積の度合いを照会するステップと、がプログラムされ記録されるコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【請求項16】 使用する会社の全社員を対象として基本アクセス権を設定し、地区や部門、役職、社員によってあらかじめ規定されたアクセス権限に従い照会の範囲を設定するステップが更にプログラムされ記録される請求項15に記載のコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、特に、有用な情報を蓄積して共有するワークフローシステムに用いて好適な、企業内情報登録活用促進システムならびに方法及び同方法がプログラムされ記録される記録媒体に関する。

【0002】

【従来の技術】 ワークフロー管理システムは、オフィスの業務に関連する情報を部門等で共有し、その情報の流れを管理することを目的とする。このワークフロー管理システムを業務形態に合わせて用いることによって、企業内における部門毎に異なる業務の流れ、部門間を結ぶ業務の流れ等の様々な業務の流れを、業務の実態に合わせて構築・管理し、迅速な文書の配送、確実な業務管理等を電子化することが可能となる。その結果、紙の文書若しくは伝票のやりとり、管理等の煩わしさ、書類の停滞、及び誤送や紛失に伴う時間の浪費を省くことができる。さらに、業務の流れが電子化されたことで、業務全体の流れ及び状況を把握できるようになる。

【0003】 このワークフロー管理システムを用いる場合、最初に業務に適したワークフローを定義するとともに、各業者の担当者と仕事の受け渡しの順序、受け渡しの条件等を定義する。このワークフローの実行時にはその定義に沿って自動的に各社員のクライアント端末によってシステムが起動され、次の担当者に引き渡される。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 ところで、上記したワークフローシステムに限らず、データを蓄積して共有し、データの流れを管理するシステムでは、共有するデータを蓄積し、かつ、有用なものとするために情報提供者にポイントを付与し、インセンティブを与えることが頻繁に行われる。

【0005】 しかしながら上述した方法によれば、情報

登録の回数のみカウントし、その情報の中身については考慮されていなかったため、データの付加価値（重み付け）が明確になっておらず、従って、やみくもにデータを登録さえすればポイントが累積され、評価され、例えば人事評価等に反映されていた。従って、真に有効なデータに対してインセンティブを与えることにはならず、無駄なデータのみが蓄積されることも考えられる。本来なら企業活動に役立つ情報が登録され、活用されたときにはじめてインセンティブが与えられて初期の目的が達せられるものである。

【0006】 本発明は上記事情に鑑みてなされたものであり、社員が情報入力する行為にポイントを加算することとはもとより、社員が提供する情報の量や質、活用度によって異なる評価ポイントを加算することにより、インセンティブや人事評価に活用できる、企業内情報登録活用促進システムならびに方法及び同方法がプログラムされ記録される記録媒体を提供することを目的とする。また、企業の知識資産を蓄積すると共に、情報のジャンル、もしくは社員毎、累積ポイントの推移をモニタして情報蓄積の度合いを分析することにより、個々の情報戦略に対するモチベーションが向上し、個人のノウハウとされていた情報を企業の知識に還元することのできる、企業内情報登録活用促進システムならびに方法及び同方法がプログラムされ記録される記録媒体を提供することと目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】 上述した課題を解決するために請求項1に記載の企業内情報登録活用促進方法は、業務に関連する企業内情報を蓄積し、その情報を共有する情報共有システムに使用される企業内情報登録活用促進方法であって、前記情報の登録行為に対し、その登録社員に任意のポイントを付与すると共に、前記登録の結果生成される文書を他の者が活用したとき、前記活用された文書の登録社員に、当該活用社員による評価が反映されたポイントを付与し、前記情報のジャンル、もしくは社員毎、累積ポイントの推移をモニタして前記情報蓄積の度合いを分析することとした。

【0008】 また、請求項2に記載の企業内情報登録活用促進方法は、請求項1に記載の同方法において、前記登録者毎の累積ポイントを累計し、期間別、もしくは情報のジャンル別に照会することとした。更に、請求項3に記載の企業内情報登録活用促進方法は、請求項1に記載の同方法において、前記活用者に活用した時点で相当のポイントを付与することとした。また、請求項4に記載の企業内情報登録活用促進方法は、請求項1に記載の同方法において、前記活用時に付与されるポイントは、あらかじめ定義された評価基準に従い、活用社員が重み付け設定することによって付与することとした。

【0009】 このことにより、誰か登録した情報を利用するときに評価できる仕組みが構築され、情報の共有、

活用を促進するために情報を登録する場合は勿論のこと、その情報が活用されることによってもポイントが発生し、個人毎、あるいは全社単位で集計され、誰がどんな情報を登録し、その情報が誰によって活用されているか、あるいは情報の蓄積の程度をビジュアルに再現できる。従って、社員に適正なインセンティブを与えることができ、また、人事評価への反映も可能となる。

【0010】請求項5に記載の企業内情報登録活用促進システムは、業務に関連する情報を蓄積してデータベース化し、その情報を共有するサーバクライアントシステムにおいて、前記サーバは、前記クライアントによる情報の登録行為に対し、その登録者に任意のポイントを付与する第1のポイント付与手段と、前記登録の結果生成される文書を他のクライアントが活用したとき、前記活用された文書の登録者に、当該活用による評価が反映されたポイントを付与する第2のポイント付与手段と、前記情報のジャンルもしくはクライアント毎、累積ポイントの推移をモニタして前記情報蓄積の度合いを分析し、要求のあったクライアントに提供するポイント情報提供手段とを備えて成ることとした。

【0011】また、請求項6に記載の企業内情報登録活用促進システムは、請求項5に記載の同システムにおいて、前記第1、第2のポイント付与手段は、あらかじめ、分類毎に内容を定義したそれぞれにポイントの規定し、更にそのポイント集計先を規定したポイント管理テーブルを持つこととした。

【0012】上記構成により、社員が情報入力する行為にポイントを加算することとにより、社員が提供する情報の量や質、活用度によって更なる評価ポイントを加算することで、適正なインセンティブを与え、個人情報を集計することで人事評価に利用できる。また、企業の知識資産を蓄積すると共に、情報のジャンル、もしくは社員毎、累積ポイントの推移をモニタして情報蓄積の度合いを分析することにより、個々の情報戦略に対するモチベーションの向上がはかれ、個人のノウハウとされたいた情報を企業の知識に変えることができる。

【0013】請求項7に記載の企業内情報登録活用促進システムは、請求項5に記載の同システムにおいて、前記第2のポイント付与手段により活用社員による評価が反映されたポイントが付与される都度更新され、閲覧要求があったときにその活用履歴を公開する活用履歴データベースを備えて成ることとした。

【0014】上記構成により、文書の活用履歴を閲覧することで自身で登録した文書が会社として役立っているか否かを確認でき、他の社員による閲覧頻度が高いほど有用な知覚情報として蓄積されることになる。

【0015】請求項8に記載の企業内情報登録活用促進システムは、請求項5に記載の同システムにおいて、前記サーバは、ジャンルもしくはクライアントをキーとして集計先、獲得ポイントデータをデータとして待ち、閲覧要求

のあったクライアントに提供するポイント累計データベースを持つこととした。

【0016】このことにより、ポイントは個人毎に集計され、誰がどんな情報をよく活用しているかがわかる仕組みとなっている。また、会社として発生したポイントについては、一瞥で確認でき、このように視覚的に判断することで会社として、何についての情報共有ができていないか判断が可能となり、今後会社としてやるべきことが明確になる。

【0017】請求項9に記載の記録媒体は、業務に関連する情報を蓄積し、その情報を共有するクライアントサーバシステムに用いられ、クライアントによって登録される情報を文書データベースに登録するステップと、あらかじめポイント管理テーブルに規定されたポイントを参照することによって登録者に該当するポイントを付与し、ポイント獲得の総度のポイントを集計加算するステップと、前記登録文書を更新するステップと、前記登録文書に関し、活用のために検索語を入力することによって情報検索を行うステップと、前記情報検索の結果、活用したい文書を抽出して閲覧表示するステップと、前記閲覧表示した文書をあらかじめ定義される評価基準に従って評価入力し、少なくともその文書の登録者に前記ポイント管理テーブルに従うポイントを付与するステップとがプログラムされ記録されることとした。

【0018】このことにより、誰が登録したものを利用するときに評価ができる仕組みが用意され、文書の活用履歴を参照することで、自分で登録した文書が役に立っているか否かを確認できる。このように、登録されている文書を活用することで利用する人にとっては業務効率の向上につながり、また、文書を登録した人にとってはきちんとした評価がなされる仕組みが用意される。このことにより、企業内に存在するナレッジの共有ができ、企業としての競争力を飛躍的に高めることができる。

【0019】請求項10に記載の記録媒体は、請求項9に記載の同媒体において、前記評価入力した活用者にもポイントを付与し、このポイント獲得の都度加算してポイントを集積するステップが更にプログラムされ記録されることとした。更に、請求項11に記載の記録媒体は、請求項9に記載の同媒体において、前記評価入力者の都度活用履歴データベースを更新し、閲覧要求があったときにその活用履歴を公開するステップが更にプログラムされ記録されることとした。

【0020】また、請求項12に記載の記録媒体は、請求項9に記載の同媒体において、あらかじめ、分類毎内容を定義したそれぞれにポイントを規定し、更にそのポイント集計先を規定してポイント管理テーブルを設定するステップが更にプログラムされ記録されることとした。更に、請求項13に記載の記録媒体は、請求項12に記載の同媒体において、前記ポイントは、定義される内容毎あらかじめ設定される数値であることとした。

【0021】このことにより、社員が情報入力する行為にポイントを加算することにより、社員が提供する情報の量や質、活用度によって異なる評価ポイントを加算することにより、インセンティブや人事評価に活用でき、また、企業の知識資産を蓄積すると共に、情報のジャンル、もしくは社員毎、累積ポイントの推移をモニタして情報蓄積の度合いを分析することにより、個々の情報戦略に対するモチベーションが向上し、個人のノウハウとされていた情報を企業の知識に変えることができる。

【0022】請求項14に記載の記録媒体は、請求項13に記載の同媒体において、前記ポイントは、設定された数値に、更に所定の重み付け演算を行うことによって定義される数値であることとした。

【0023】このことにより、社員が提供する情報の質や量の他に、活用度によっても評価ポイントが加算され、インセンティブや人事評価への活用が可能となる。

【0024】請求項15に記載の記録媒体は、業務に関連する情報を蓄積し、その情報を共有するクライアントサーバシステムに用いられ、クライアントによって登録される情報を文書DBに登録するステップと、あらかじめポイント管理テーブルに規定されたポイント参照することによって登録者に該当するポイントを付与し、ポイント獲得の都度そのポイントを累計加算するステップと、前記登録文書を更新するステップと、前記登録文書に関し、活用のために検索語を入力することによって情報検索を行うステップと、前記情報検索の結果、活用したい文書を抽出して閲覧表示するステップと、前記閲覧表示した文書をあらかじめ定義される評価基準に従って評価入力し、少なくともその文書の登録者に前記ポイント管理テーブルに従うポイントを付与するステップと、少なくとも前記登録情報のジャンル毎、累積ポイントの推移をモニタして前記情報蓄積の度合いを照会するステップとがプログラムされ記録されることとした。

【0025】このことにより、個々の情報戦略化に対するモチベーションが向上し、顧客情報のみならず、句の話題や顧客ニーズ、クレーム情報、業務報告等経営者の知りたいたら情報情報の蓄積を推進し、今まで個人ノウハウとされていた情報を企業の有用な知識情報に変えることができる。

【0026】請求項16に記載の記録媒体は、請求項15に記載の同媒体において、使用する会社の全社員を対象として基本アクセス権を設定し、地区や部門、役職、社員によってあらかじめ規定されたアクセス権限に従い照会の範囲を設定するステップが更にプログラムされ記録されることとした。

【0027】このことにより、少なくとも役職、部門、社員毎にアクセス権限の範囲が設定され、その範囲内でのセキュリティが確保できる。

【0028】

【発明の実施の形態】図1は本発明におけるシステム構成を示した図である。図1において、10、20はそれぞれクライアントサーバシステムを示す。クライアントサーバシステム10において、1はサーバ、2、3、4及び5はそれぞれクライアントを示す。クライアントサーバシステム10において、サーバ1及びクライアント2からクライアント5の各端末を通信回線30で結ぶことによりLAN (Local Area Network) が構築される。同様に、クライアントサーバシステム20において、1aはサーバ、2a、3a及び4aはそれぞれクライアントを示し、30aはLAN等の通信回線を示す。サーバ1a及びクライアント2aからクライアント4aの各端末を通信回線30aで結ぶことによりLANが構築されている。ここでは、クライアントサーバ10を本社、クライアントサーバ20を遠隔地の支社に設置することを想定している。

【0029】40は公衆回線網を示し、公衆回線網40は、通信事業者が提供する交換接続型の加入電話網、パケット交換網、若しくはISDN (Integrated Services Digital Network) 等の電気通信回線である。クライアントサーバシステム10及び20は、ルータ若しくはブルート等のLAN同士を相互に接続するための装置と公衆網40とを介して接続されている。このような構成にすることにより、遠隔地からの処理要求にも対応することができる。また、公衆網40をインターネットに置き換える、若しくは、公衆網40とインターネットを併用するというような実施形態とすることもできる。

【0030】サーバコンピュータ1は本社のサーバを示し、サーバコンピュータ1は本社で管理するデータベース (以下、「DB」という) であるDB50を有する。なお、本実施形態においてこのDB50の格納場所は、サーバ1の端末の記憶装置と定義しているが、別サーバの記憶装置としても差し支えない。

【0031】図2は、図1に示すサーバコンピュータ1 (1a) の内部構成を示すブロック図である。サーバコンピュータ1 (1a) は、CPU11を制御中枢として、主記憶装置12、ハードディスク装置 (HDD) 13、入力装置14、表示装置15、LANコントローラ (モデム) 16がシステムバス17に共通接続される。

【0032】主記憶装置12にはOS (基本ソフトウェア) として、米国マイクロソフト社のWindows NT121が使用され、グラフィックユーザインタフェース (GUI) 122、ワークフローエンジン123、ナレッジポイントエンジン124が割り付けられ記憶される。

【0033】ワークフローエンジン123は、業務に適用したワークフローを定義するとともに、各業務の担当者と仕事の受け渡しの順序、受け渡しの条件等を定義し、ワークフローの実行時にはその定義に沿って自動的に各社員のクライアント端末によってシステムが起動され、

次の担当者に引き渡されるものであり、本発明要旨とは直接関係しないためこれ以上の説明は要しない。ナレッジポイントエンジン124は、本発明の企業内情報登録活用促進方法を実現するためのプログラムであり、後にフローチャート及び表示画面を参照しながら詳細に説明する。125は、上記各プログラムによって使用されるワーク領域である。

【0034】HDD装置13には、文書管理DB131、ポイント管理DB132、顧客情報、クレーム報告他、情報登録、活用の都度都度ポイントが付与される各種データファイル133が蓄積される。ポイント管理DB(132)のみ、そのエリア割付の例が示されている。すなわち、付与ポイント管理DB(1321)、社員別ポイント累計DB(1322)、会社ナレッジポイントDB(1323)が割り付けられる。図3に各DBのファイル構成が示されている。

【0035】図3において、(a)として示す付与ポイント管理DB(1321)は、1エントリが、大分類、小分類、内容、付与ポイント、集計先の各フィールドから構成される。大分類、小分類の各フィールドには、登録文書の種類に応じて定義される分類記号が、内容のフィールドには、例えば、掲示板への新規投稿、顧客情報としての名詞登録等、ポイント管理のための設定項目が書き込まれる。また、付与ポイントのフィールドには、重み付けとして与えるポイント値、ここでは5段階評価のための数値が設定され、集計先のフィールドには、キャビネットとして格納される集計ファイルの種類が書き込まれる。

【0036】一方、(b)として示す社員別ポイント累計DB(1322)は、1エントリが、社員番号、年月、集計先、獲得累計ポイントから成る、または、社員番号、年、集計先、獲得累計ポイントから成る、あるいは社員番号、集計先、獲得累計ポイントの各フィールドから成る3つの形態が用意される。更に、(c)として示す会社ナレッジポイント累計DB(1323)は、1エントリが、ジャンル、年月、現在ポイント累計値の各フィールドで構成される。

【0037】説明を図2に戻す。入力装置14として、キーボード、マウスが、表示装置15として、例えば高精細液晶モニタが用意され、これら入出力装置でGUI装置を構成する。主記憶装置12に割り付けられたGUI1(22)と協同して図10～図17に示す表示入力画面を生成し、また、入出力処理を実行する。LANコンピュータ1(1a)は、公衆回線40もしくはインターネット経由で接続されるクライアントとの通信を行う通信制御部である。

【0038】図4は、図1に示すクライアントコンピュータ2～5(2a～5a)の内部構成を示すブロック図である。

【0039】クライアントコンピュータ2～5(2a～

5a)は、CPU21を制御中枢として、主記憶装置22、ハードディスク装置(HDD)23、入力装置24、表示装置25、LANコントローラ(モデム)26がシステムバス27に共通接続される。

【0040】主記憶装置22にはOS(基本ソフトウェア)として、米国マイクロソフト社のWindows98(221)が使用され、少なくともブラウザ222が割り付けられ記憶される。主記憶装置22にはブラウザ222によって使用されるワーク領域223も割り付けられる。ローカルディスク23には、上述したサーバコンピュータ1(1a)から送られる情報の一部写しを格納したり、ブラウザ222を介して外部をアクセスしたときのキャッシュデータが格納される。また、入力装置24として、キーボード、マウスが、表示装置25として例えば液晶モニタが用意され、これら入出力装置でGUI装置を構成する。主記憶装置12に用意されるOS(図示せぬドライバソフトウェア)221と協同して図10～図17に示す表示入力画面を生成し、また、入出力処理を実行する。LANコンピュータ26は、公衆回線40もしくはインターネット経由で接続されるサーバコンピュータ1(1a)との通信を行う通信制御部である。

【0041】図5は、本発明実施形態の動作を説明するために引用した図であり、全体の概略動作の流れを示すフローチャートである。

【0042】以下、図5に示すフローチャートを参照しながら図1乃至図4に示す本発明実施形態の概略動作について説明する。まず、社員の一人がクライアントコンピュータ2～5(2a～5a)を操作して情報登録を行う(ステップS51)。情報登録項目として、商談入力、業務報告書入力、文書登録、掲示板への投稿等、営業活動に伴う種々の情報登録が考えられる。このことにより、サーバ1にあるナレッジポイントエンジン124が起動され、その情報登録社員に対してポイントが加算され(ステップS52)、ポイント管理DB132に割り付けられてある社員別ポイント累計DB(1322)も更新してその社員の獲得ポイントを増加させる。同時に文書管理DB(131)も更新する(ステップS53)。

【0043】次に、他の社員により、情報登録の際に参考とすべき蓄積文書の検索が行われたとする(ステップS54)。ここでその活用社員によって検索文書の詳細が表示され、あらかじめ定義された評価基準に従って評価入力が行われる(ステップS55)。その社員によって評価された内容は、ナレッジポイントエンジン124によって取り込まれ、その検索文書の登録者及び評価入力した活用者にもポイントが付与される(ステップS56)。もちろん、該当社員毎、ポイントが付与される都度加算され、その社員の獲得ポイントがアップする毎に社員別累計DB(1322)が更新される。更に、文書

活用履歴DB(1324)の内容も更新され、後に公開される。

【0044】図6乃至図9は、本発明実施形態の動作を詳細に説明するために引用した図であり、更に詳しくは、サーバコンピュータ1(1a)に実装されるナレッジポイントエンジン124による、ポイント管理の設定、文書評価ランクの登録、情報活用、ポイント照会時におけるそれぞれのプログラム処理手順がフローチャートで示されている。また、図10は、本発明における企業内情報登録活用促進システムのログイン後の初期画面構成を示す図、更に、図11乃至図17は、ナレッジポイントエンジン124によって生成される、ポイント管理の設定画面、区分の登録画面、文書情報の検索画面、文書詳細画面、文書の活用履歴画面、ポイントランキング照会画面、会社のナレッジ度照会画面のそれぞれを示す図である。

【0045】以下、図6乃至図17を参照しながら図1乃至図4に示す本発明実施形態の動作について詳細に説明する。

【0046】社員がクライアントコンピュータ2～5(2a～5a)を操作することにより、図10に示す画面が表示される。ここでは豊富なGUI機能が備わっており、掲示板、メール、スケジュール、アシストメッセージを示すウィンドウを切り替えることによって自由にアクセスし、社内の蓄積情報を参照ならびに更新することができる。画面右にはポイントランキング照会度が割付けられており、ここをクリックすることで後述するポイントランキングの照会画面を見ることができる。

【0047】まず、本システム稼働前における保守のための操作から説明する。図11にポイント管理設定画面が示され、図6にポイント管理設定のための処理手順が示されている。最初にシステムに対する登録行為、文書活用のそれぞれに対して何ポイント与えるか、重み付けを規定しておく必要がある。そのため、ここでは、情報登録行為をあらかじめ分類し、それぞれに対してポイントを設定し定義してある。すなわち、掲示板、フォーラムへの新規投稿、顧客情報の登録行為に対してポイント1、評価ランクAの活用文書に対してはポイント5としてそれぞれ定義してある。この定義ファイルは、重み付けテーブルとして、付与ポイント管理DB(1321)に格納される。

【0048】従って、ユーザは、コード体系を社内に着信される登録文書に従ってあらかじめ設計し、図11に示すポイント管理の設定画面を使用して、大分類(小分類)コード、内容、付与すべきポイント値、累計先をあらかじめ設定入力し(ステップS61～S64)、付与ポイント管理DB(1321)に重み付けテーブルを作成しておく必要がある。

【0049】図12は区分登録(文書評価ランク)画面であり、図7にその処理手順が示されている。この画面

により登録文書の評価ランクが規定される。ここでは一実施形態として、文書が役に立つか否かでA～Eの5段階評価が定義されている。従って、ユーザは、この画面を使用して、区分番号(A～E)、名称(役に立つか否か)、数値(ポイント)をあらかじめ設定入力し(ステップS71～S73)、評価ランクテーブルを作成(ステップS74)しておく必要がある。本発明実施形態では、単に5段階評価としたが、このことに制限されず、単に役に立つか否かでなく、更に他の評価ファクタを加味してマトリクス評価としたり、あるいは算術式による評価等々考えられる。また、評価入力で付与されるポイントは、後述するポイント管理設定で行われ、区分の登録では評価ランクを設定するのみとする。

【0050】以上の準備を行ってはいじめ企業内情報登録活用促進システムとして運用させることができる。図8にその処理手順が、図13～図15にその処理画面が示されている。蓄積された文書を利用しようとする社員は、まず、文書管理DB(1331)をアクセスして情報検索をする(ステップS81)。この文書情報検索の結果生成される画面が図13に示されている。ここでは、期間指定を行なうことにより、登録文書、商談情報の中から検索した、14件の文書が抽出されている(ステップS82)。次に、その社員は、検索画面にあるタイトルならびに概要を参考に、活用したい文書を選択し、そのタイトルをクリックすることにより、その詳細文書がダウンロードされ表示される(ステップS83)。その結果生成される文書の詳細画面は、図14に示されている。

【0051】ユーザがこの詳細文書を閲覧することにより先の評価基準に従って評価入力を行う(ステップS86)。すなわち、役に立ちそうであれば評価Aを、ある程度使えれば評価Bを、参考になれば評価Cを、部分的に使えそうであれば評価Dを、見ただけで全く参考にならなければ評価Eを設定入力する。このことにより、ナレッジポイントエンジン124は、あらかじめ規定されたポイント値に交換してポイント管理DB(132)を更新し、登録社員に対するポイント、ならびに会社ナレッジポイントをアップさせる。

【0052】なお、ステップS84の処理で、他の文書が見えれば一旦閉じてステップS82以降の処理に戻る。また、この文書の活用履歴を見なければ、画面左上に割り付けられた活用履歴印をクリックすることにより、図15に示す活用履歴画面を表示することができる(ステップS85)。活用履歴画面においては、該当文書が過去に検索され評価入力された履歴が表示され、ユーザは、これを参考に評価入力することもできる。この活用履歴を表示するためにはポイント管理DB(132)に割り付けられる活用履歴DB(1324)が参照される。

【0053】図9にポイント照会のための処理手順を、



図16、図17にポイントランキング照会画面が示されている。ポイント照会を行うにあたり、まず、アクセス権のチェックが行われる。ここでは、該当する会社の全社員を対象として基本アクセス権を設定しているが、役職や部門を対象としたアクセス権を設定することにより内部でのセキュリティ効果を持たせることもできる。

【0054】個人のポイントランキングが図16に示されている。上半分に社員別ポイントランキングが、下半分に個人の獲得ポイントがジャンル別に表示されている。また、ジャンル毎の会社のナレッジ度が図17に示されている。ここに表示される内容は、図3に示すポイント管理DB(132)に割り付けられ格納される社員別ポイント累計DB(1322)、会社ナレッジポイントDB(1323)に格納された各人の獲得累計ポイントに基づく。

【0055】上述したポイントは個人毎に集計され、誰がどんな情報をよく活用しているかがわかる仕組みとなっている。また、会社として発生したポイントについては、一覽で確認でき、このように視覚的に判断することで、会社として何についての情報共有ができていないかの判断が可能となり、このことにより、今後、会社として注力すべき事項が明確になる。

【0056】なお、上述した企業内情報登録活用促進システムの処理をコンピュータに実行させるためのプログラム、すなわち、ナレッジポイントエンジン124は、CD-ROM、MO、DVD-ROM等の記録媒体に記録されて配布され、または、インターネットでのダウンロードにより配布され、サーバにインストールされ使用される。

【0057】このプログラムファイルが起動されることにより情報登録活用に基づくポイント処理が可能となる。なお、本実施形態においては、図1のクライアント・サーバシステム10のサーバ10の端末にインストールされている。また、上述した本実施形態では、文書をHTML(hypertext markup language)形式で作成しているので、申請文書内容データ中の命令データは、「<」と「>」で括弧された予約語であるタグに相当する。命令データが規定する表示形式にて表示する表示手段としてはブラウザを用いている。また、HTMLとは、WWW(world wide web)で使用されているホームページを公正する文書を記述するためのマークアップ言語である。一方、ブラウザとは、インターネットのホームページ等を眺めるためのソフトウェアであり、このブラウザのHTMLのタグで規定された表示形式にて表示するという機能は公知技術である。なお、本実施例の形態では、HTML形式にて申請文書を作成しているが、本発明はこれに限定するものではなく、XML(extensible markup language)形式、SGML(standard generalized markup language)形式等により申請文書を作成することもできる。

【0058】ブラウザとしては、マイクロソフト社の「Internet Explorer」及びネットスケープコミュニケーションズの「Netscape Navigator」等が知られている。さらに、ブラウザにはあらゆるコンピュータとネットワークにおいてTCP/IPによって動作可能にするという機能、及びネットワークコンピュータの処理能力を利用することを可能とする機能を有し、ブラウザを用いることでこれらの機能も利用することが可能となる。

【0059】従って、本実施形態においては、ブラウザが表示手段として、図1に示す各クライアント端末及びサーバ端末に予め実行可能な状態で用意され、HTML形式にて作成された申請文書情報の申請文書内容データをブラウザに出力させることにより、文書情報の内容を容易に表示させることができる。さらに、企業内情報登録活用促進システムにおける画面表示を全てブラウザで行う。つまり、企業内情報登録活用促進システムをブラウザ上で実行させることで、HTML形式で作成された情報の画面表示及びネットワークにおける端末間の処理等を容易に実行することができる。

#### 【0060】

【発明の効果】以上説明のように本発明によれば、情報の共有、活用を促進するために、情報を登録したり、情報が活用されることによってポイントが発生するポイント管理機能を持たせることができ、このポイントは個人毎に集計され、誰がどんな情報をよく活用しているかがわかる仕組みとなっている。また、会社として発生したポイントについては、一覽で確認でき、このように視覚的に判断することで会社として、何についての情報共有ができていないかの判断が可能となり、今後会社としてやるべきことが明確になる。

【0061】また、誰か登録したものを利用するときに評価ができる仕組みが用意され、文書の活用履歴を参照することで、自分で登録した文書が役に立っているかを確認できる。このように、登録されている文書を活用することで利用する人にとっては業務効率の向上につながり、また、文書を登録した人にとってはきちんとした評価がなされる仕組みが用意される。このことにより、企業内に存在するナレッジの共有ができ、企業としての競争力を飛躍的に高めることができる。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明における企業内情報登録活用促進システムの実施形態を示すブロック図である。

【図2】図1に示すサーバコンピュータの内部構成を示すブロック図である。

【図3】図2に示すポイント管理DBのデータ構造を示す図である。

【図4】図1に示すクライアントコンピュータの内部構成を示すブロック図である。

【図5】本発明実施形態における全体の流れをフローチャートで示した図である。

【図6】ポイント管理の設定を行うための処理手順をフローチャートで示した図である。

【図7】文書評価ランクの設定を行うための処理手順をフローチャートで示した図である。

【図8】情報を利用する場合の動作手順をフローチャートで示した図である。

【図9】ポイントランキング照会を行う場合の動作手順をフローチャートで示した図である。

【図10】本発明実施形態におけるログイン画面の構成を示す図である。

【図11】ポイント管理設定画面の画面構成を示す図である。

【図12】文書評価ランク設定画面の画面構成を示す図である。

【図13】検索画面の画面構成を示す図である。

【図14】詳細文書画面の画面構成を示す図である。

【図15】活用履歴画面の画面構成を示す図である。

【図16】個人別ポイントランキングの照会画面を示す図である。

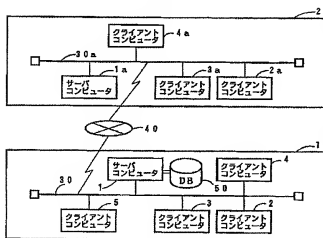
【図17】会社別ポイントランキングの照会画面を示す図である。

【符号の説明】

- 1                   サーバコンピュータ  
2 (3、4、5)       クライアントコンピュータ

- 10 (20)           クライアントサーバシステム  
11 (21)           CPU  
12 (22)           主記憶装置  
13                ハードディスク装置  
14 (24)           入力装置  
15 (25)           表示装置  
16 (26)           LANコントローラ  
17 (27)           システムバス  
23                ローカルディスク装置  
121 (221)       OS  
122               GUI  
123               ワークフローエンジン  
124               ナレッジポイントエンジン  
125               ワーク領域  
131               文書管理DB  
132               ポイント管理DB  
133               各種ファイル類  
222               ブラウザ  
30               LAN回線  
40               公衆回線網  
1321              付与ポイント管理DB  
1322              社員別ポイント累計DB  
1323              会社ナレッジポイントDB  
1324              活用履歴DB

【図1】



【図3】

20 (a) 付与ポイント管理DB (1321)

大分類	小分類	内容	付与ポイント	累計先
-----	-----	----	--------	-----

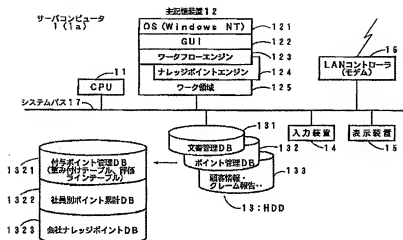
(b) 社員別ポイント累計DB (1322)

社員No.	年月	累計先	獲得累計ポイント
社員No.	年月	累計先	獲得累計ポイント
社員No.	年月	累計先	獲得累計ポイント

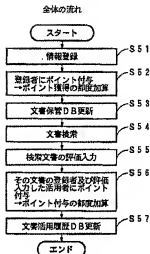
(c) 会社ナレッジポイントDB (1323)

累計先	年月	現在ポイント累計
-----	----	----------

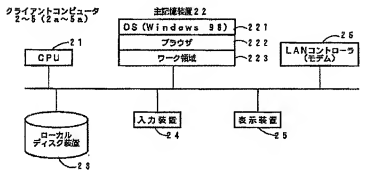
【図2】



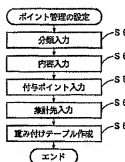
【図5】



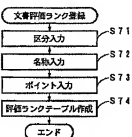
【図4】



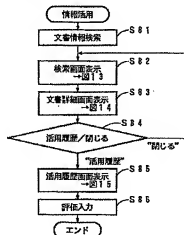
【図6】



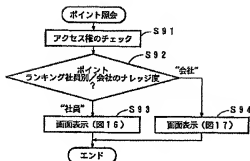
【図7】



【図8】



【圖9】



【圖 10】

[illegible]

【圖 1-1】

[illegible]

【圖 12】

[illegible]



【図15】

氏名	性別	年齢	所属	コメント
2000/01/24	男性	30	トヨタ自動車株式会社、愛知県豊田県	
1999/01/24	男性	29	豊田県豊田市	

コメント

コメント	A
	B

【図16】

氏名	性別	年齢	所属	コメント
2000/01/24	男性	30	トヨタ自動車株式会社、愛知県豊田県	
1999/01/24	男性	29	豊田県豊田市	

コメント

コメント	A
	B

